

# 平成26年度第1回東北地方整備局コンプライアンス・アドバイザリー委員会

## 議 事 概 要

1. 開催日時 平成26年7月10日(木) 13:30~14:30

2. 開催場所 東北地方整備局 応接会議室

### 3. 出席者委員

委員長	浦井 義光	弁護士
委員	内田 貴和	公認会計士・税理士
委員	飛田 善雄	東北学院大学教授

### 4. 議事概要

- (1) 平成25年度 東北地方整備局コンプライアンス報告書(案)について
- (2) 平成26年度 東北地方整備局コンプライアンス推進計画の変更(案)について
- (3) 東北地方整備局発注者綱紀保持規程改正(案)について
- (4) 発注事務に関するコンプライアンス・マニュアル改訂(案)について
- (5) 意見交換

### 5. 委員からの意見等

#### ○報告書(案)に対する主な意見

◆セルフチェックシートにおける誤回答の内容等を検討し、講習会などを通じて職員に勉強させることが必要である。また、その点が是正されたかどうかの確認のため、次回のセルフチェックシートにおいて、問題表現を変えた上で再度チェックすることも大事である

◆コンプライアンス・インストラクターについては、その活用方法や指導内容等を充実することにより、不祥事を防止しうる効果はかなり期待できるのではないか。今後は、インストラクターの活用方針等を明確にして内容の充実を図っていただくとともに、質を維持するための工夫も図っていただきたい。

◆コンプライアンスというと談合防止や不正防止などに視点が行きがちであるが、酒気帯び運転や非違行為の防止はコンプライアンスの根本的事項である。これらの行為は、マスコミ報道により組織イメージが大きく損なわれることから、今後ともこれらの行為の未然防止のため組織として周知徹底を図っていただきたい。

#### ○発注者綱紀保持規程改正(案)等に対する意見交換

◆Q1: 職員が発注者綱紀保持規程の改正を要請する際のルールはあるか。

◆A1: 特にルールは定めていない。ただし、コンプライアンス推進計画の実施状況報告やコンプライアンス・ミーティングなどの取組の中から出た意見・要望が本局に上がってくるので、翌年のコンプライアンス推進計画を定めるときは、これを反映させるようにしている。

◆Q2: 職員からの改善意見を取り上げるシステムを構築していないことで、体外的に見て発注者綱紀保持規程に問題があるとの指摘を受けることがないか心配である。

◆A2: 基本は、PDCAサイクルでコンプライアンス推進計画をしっかりと回していくことだと考えているが、システムを構築するとなればどのような方法がよいのか委員の先生方と相談しながら研究していきたい。

- ◆Q3：発注者綱紀保持規程第12条では、報告を行った職員が名前を出すことを望まないときは、その氏名等を調査してはならないという規程があるが、不当な働きかけの報告が職員から上がったことを知りえるのはどういう立場の人たちなのか。
- ◆A3：外部窓口の弁護士を通した通報で職員が名前を出すことを望まないときは、弁護士が報告書の職員名をマスクングして本局の担当者に回付することとしている。報告職員が所属する事務所には、本局から事務所長又は副所長あてにマスクングされた報告書の写しを送付することになる。
- ◆Q4：コンプライアンス・インストラクターについては、インストラクターの質の維持及び制度を継続するためのシステムの構築が難しいと思われるが、その辺をどのように考えているのか、伺いたい。
- ◆A4：コンプライアンス・インストラクター養成研修を今年度も引き続き実施してインストラクターを養成するとともに、インストラクターが事務所で講習会を行うにあたり、取り組みがマンネリ化しないよう、資料に最新の不祥事例を取り入れる等、継続的に実施するための様々な検討を行っているところである。
- ◆Q5：コンプライアンス・インストラクター制度というのは、職員の不祥事防止に大変有効だと思う。悩み事を相談できるような人が身近にいて、相談内容にうまく対応できれば、不祥事を未然に防ぐことが出来る可能性が高いのではないか。
- ◆A5：インストラクター養成研修を行ってインストラクターを増やすとともに、活用することをしっかりと考えていきたい。

## 6. 整備局からの発言

我々が事業を進めるうえでは、地域の方々に私たち整備局を信頼していただくということが非常に重要であると思っており、そういう意味でコンプライアンスは最優先の課題であると考えている。

また、職員一人一人がなぜコンプライアンスが大事なのかということをしかりと自らの課題として考えていくことが必要であると思っている。

今年度も引き続き推進計画等をもとに取り組みを進めて行くが、今日ご指摘いただいたことも検討しながら、良い方向へ持っていきたいと考えているので、引き続きご意見を賜りたい。